

地域の障がい者雇用促進へ ～企業間連携会の取り組みについて～

- 鬼東 幸佑（GMOドリームウェーブ株式会社 マネージャー）
- 西 晶子（GMOドリームウェーブ株式会社 チーフ）
- 井上 由華（GMOドリームウェーブ株式会社）
- 鈴木 理子（GMOドリームウェーブ株式会社）

1 はじめに

GMOドリームウェーブ株式会社（以下「当社」という。）はGMOインターネットグループの特例子会社として2017年に宮崎県に設立し、現在は障がいをもつパートナー27名、支援者6名で構成される。全ての障がい種（身体・知的・精神・発達）が在籍し、その中でも発達障がいをもつパートナーが約5割を占める。基本的に支援者1名につき6～8名の障がいをもつパートナーを担当して支援を行っている。

障がい者雇用の支援において、支援者のスキル向上の難しさや支援者の孤立感、それに伴う定着の困難さが課題としてあげられる。背景として、研修や育成の機会の少なさにより、各企業内ないし個人でスキルアップのための勉強を行わなければならない事や、障がい者雇用企業間の交流の少なさにより支援における悩みを共有・相談できる相手や場が限られてしまう事が考えられる。本稿では、このような課題に対して宮崎県に立地する障がい者雇用企業と合同で行っている取り組みの概要と成果について述べる。

2 取り組みの経緯

2021年、障害者職業総合センター研究部門の研究協力の一環で障がいをもつパートナーのコミュニケーションスキル、支援者の支援スキルの向上を目指してSST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）セミナーを実施した。宮崎県で障がい者雇用を行っている特例子会社を含む5企業と合同で開催、宮崎県全体の障がい者支援スキル向上、企業の枠を超えた支援者同士の繋がりの醸成を目的とした。

SSTセミナーは計5回実施し、各回が、本セッションとブースターセッションで構成された。本セッションは参加企業合同で実施し、研究員がリーダーとしてセミナーを進行、参加企業のうち4社から1～2名の障がいをもつパートナーが参加した。ブースターセッションは各企業で実施、支援者がリーダーとしてセミナーを進行した。なお、SSTセミナー終了後は各社の判断でSSTを継続するものとしており、当社では入社研修の一環としてSSTを実施している。

約半年間のSSTセミナー終了後、セミナーに参加した企業を中心に障がい者雇用企業の連携会「Hinata障がい者雇用推進ネットワーク（以下「Hinataネット」とい

う。）」を立ち上げ、定期的な情報交換やケーススタディを継続して行っている。SSTセミナー参加企業に1社が加わり当社を含む7社の参加で発足、3ヶ月に1回の頻度で開催、2022年7月時点で計3回実施している。宮崎県の障がい者雇用促進を目的に、支援者のスキル向上と支援者間の交流による心理的負担の軽減を狙ってケーススタディを行っている。なお、コロナ禍かつ遠方からの参加企業もあることからオンラインでの実施としている。

3 成果

取り組みに関する満足度や成果の調査、今後の展望の検討を目的として、参加企業の支援者9名を対象にSST、Hinataネットの2つのテーマでアンケートを実施した。なお、Hinataネットのみに参加した支援者については、該当する問いのみへの回答としている。

SST参加後の支援者の支援スキル、参加した障がいをもつパートナーのコミュニケーションスキルの効果について、全ての参加者が「非常に良かった」または「良かった」と回答。支援スキルは「実際に（SSTセミナーを）見ることでも有効性を現場で確認しながら進めることができた」「具体的かつ肯定的に伝えることでメンバーのやる気を引き出すことができた」、メンバーのコミュニケーションスキルは「自然に褒める言葉が出ている」「回を追うごとに、参加メンバーのスキルが伸びていく様子がよくわかった」等が理由とされる。

Hinataネットの満足度について全員が「非常に良かった」「良かった」と回答。理由として「学びがある」「自社の障がい者雇用環境改善のノウハウ構築につながっている」等があげられている。Hinataネットの実施で企業間の連携は強化されたかという問いについては67%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しており、「以前よりも『何かあったらHinataネットで相談しよう』や『この件はA社に相談してみよう』と気軽に考えられるようになった」「支援者として情報共有いただけている事が非常にありがたい」と述べている。一方で33%は「あまり思わない」と回答、「個人的に『相談できる』関係はまだ築けていないと感じる」「現時点では『会があるから集まる』と受動的な部分が多い」等が理由である。今後も

Hinataネットを継続したいかという問いには全員が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。「宮崎県で働く障がいをもつ方のために宮崎をもっと良くしていこうと動く会の存在は必要」「視野を広げることができる」等が理由にあげられる。今後どのようにHinataネットを継続していきたいかという問いには、図1に示すように「座談会」の回答が最も多かった。

今後どのように展開していきたいか（複数回答可）

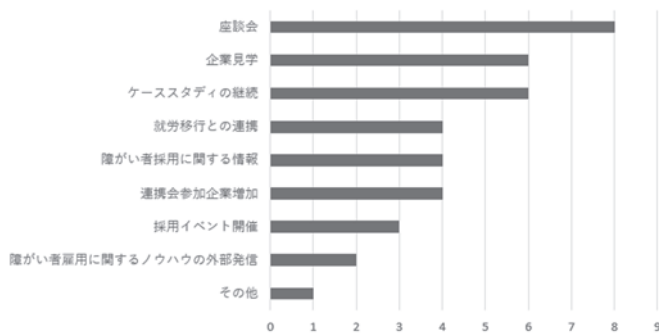


図1 「今後どのように展開していきたいか」回答

4 考察・今後の展望

SSTセミナーについて、SSTセミナーの実施の目的である支援者・障がいをもつメンバーのスキルアップは達成できたと考える。また、SSTセミナーで生まれた企業間のつながりを生かしてHinataネット開催の立案、実行をできていることから、企業の枠を超えた支援者同士の繋がりや醸成のきっかけとしても十分に目的を達成できていると言える。一方で、セミナー終了後の各企業のSST継続に課題が見られている。継続に課題を感じている企業の多くが、通常の業務と並行してSSTを行う時間や人員の確保に難しさを感じている現状がある。SSTの取り入れ方について各社と情報交換を行う等して、日頃の支援の中でSSTを取り入れる工夫が必要であると考えられる。

Hinataネットについては、参加している支援者の満足度も高く得られており、アンケート結果からもHinataネットへの参加が各社の支援の充実や相談しやすい関係の構築に役立っている事が分かる。Hinataネットへの参加により、他企業の支援体制の理解や同じ立場の人に悩みの共有をできる事がその要因と言える。このような関係性の構築の結果、Hinataネット参加企業の合同説明会開催の案もあがっている。こちらは議論を重ねた結果実現には至らなかったが、Hinataネットでの関わりからこのような相談を気軽にできるような関係が構築できていると考える。

一方で、企業間の連携の強化については「そう思わない」との回答も見られた。支援者間の関係性の構築が見られるとはいえまだ十分でなく、今後も優先して連携の強化や相

談できる関係性の構築に重点を置いた取り組みを継続していく必要があると考える。「今後どのような展開を希望するか」という問いに対して「座談会」や「企業見学」、「ケーススタディの継続」の回答が多い事からも、支援者の多くが今後も気軽に話をできる場や意見交換による支援スキルの向上を求めていると言える。現在コロナ禍で直接集まることが難しく、オンラインでのケーススタディが主な活動内容となっているが、今後は直接集まり、座談会や企業見学等、気軽に話し相互理解を深める場の設定も必要であると考えられる。

なお、連携の強化については参加者によって回答に程度の差が見られたが、全ての参加者が今後の継続を希望している。現時点での取り組みから今後の連携の強化に期待をしているからこそ継続を希望していると考えられる。また、Hinataネット開催にあたり、現在は会の進行やケーススタディの事例提供等の担当を参加企業が交代で行っている。その中で相談や協力をする等コミュニケーションの頻度の増加やさらなる関係性の構築が目指せるのではないかと期待している。

今後、Hinataネットの取り組みをベースに、就労移行支援機関との連携や採用イベント開催等を取り入れ活動を発展させたいと考える。企業ごとに採用方針や課題も異なるため、参加企業や関係各所の意見やニーズを聞きながら慎重に進める必要があるが、この発展的な取り組みが各社のさらなる障がい者雇用の促進や企業以外の関係各所との連携、情報交換、ひいては宮崎県全体の障がい者雇用の促進につながるのではないかと考える。

5 おわりに

Hinataネットの取り組みが、支援者の定着、支援スキルの向上のためのコミュニティづくりに役立つことで、障がい者が働きやすい場の増加や障がい者の職場定着に繋がり、宮崎県全体の障がい者雇用の促進の一旦を担うことを期待する。SSTセミナーの実施やHinataネット開催にあたり、障害者職業総合センター研究企画部研究部門岩佐研究員、Hinataネット参加企業の皆様に多くの協力を賜った事に、この場を借りて感謝の意を表す。

【連絡先】

鬼束 幸佑・西 晶子
GMOドリームウェブ株式会社
e-mail : support@gmo-dw.jp